

1 点検実施率

- ・平成28年度末時点での点検実施率（予定）は、計画に対して橋梁が-3.4%、トンネルが-10.5%、道路附属物が-7.1%と遅れている状況。
- ・1/3程度の市町村で橋梁、トンネルの点検をH28~30年度に多く予定しているため、点検の前倒しや計画通りの点検実施が必要。

	計画	実施(予定)	差
橋梁	54.6%	51.2%	-3.4%
トンネル	48.3%	37.8%	-10.5%
道路附属物等	63.0%	55.9%	-7.1%

※)計画は、H27.11の「道路メンテナンス年報」の数値

※)実施(予定)は、H28.9月末時点の数値

2 点検および補修予算の確保

- ・跨線橋、跨道橋の点検費用が予算を圧迫しており、点検実施に苦慮している。
- ・また、点検、補修設計、補修工事に要する財源が安定的に確保されていないのが実態。

3 自治体・職員の負担

- ・技術系の職員が少ないために、点検の質（損傷の程度や評価、原因、進行性の有無等）の確保や今後、点検結果を踏まえた補修設計、補修工事を行っていく際の積算、関係機関協議、工事監理を実施する体制が十分ではない。

4 課題への対応状況

- ・メンテナンス会議主催の点検講習会への参加により、市町村職員の知識の向上が図られている。
- ・また、補修工事執行にあたり、山梨県建設技術センターによる発注者支援（積算及び現場技術業務等）を受けける体制を整えている。